

目次

まえがき

海老澤 衷
近藤 成一
甚野 尚志

第I部 歴史学者としての朝河貫一

『大化改新の研究』と近代日本史学の岐路

海老澤 衷…二

朝河貫一の一九三〇年代以降の歴史研究

甚野 尚志…三

朝河貫一の南九州中世史研究

近藤 成一…三

第II部 近代の大学と国際交流

ウィリアム・J・タッカーの大学改革と朝河貫一の役割

増井由紀美…四

——ダートマス大学から世界へ——

朝河貫一と日本図書館協会

松谷有美子…二八

——アメリカから近代日本の図書館界を支援した足跡をたどって——

朝河貫一と近代中国

武藤秀太郎…四四

第III部 朝河貫一と国際平和の提唱

朝河貫一の占領下民主化政策批判と

憲法九条・反省の象徴としての天皇制

浅野 豊美…六六

——「武力征略の心」をめぐる国民性概念を中心に——

目次

五

朝河貫一の戦後構想「民主主義」と

Open Letter (回覧書簡) の役割

山内晴子…二六

社会学と社会的福音

陶 波…三三

——IPR結成前の加州人種問題サーベイをめぐる学界とキリスト教界——

朝河貫一と国際補助語協会

中村治子…二五

——朝河とアリス・V・モリスとの関係を軸に——

あとがき

甚野尚志

朝河貫一略年譜

甚野尚志作成

執筆者紹介

第I部 歴史学者としての朝河貫一